

2006 年度卒業計画 逆川地区への景観計画の提案

高知工科大学 社会システム工学科
景観デザイン研究室
1070477 石崎 翌

1. はじめに

1-1 背景

本計画は「龍河洞の現在の状況に歯止めをかけた
い。」と龍河洞保存会から高知工科大学へ龍河洞活性化研究会の立ち上げの話が来たことから始まる。

最初の研究会は 2005 年 11 月 10 日、高知工科大学で行われ、花の植栽や多自然型工法など逆川集落にも考えられる整備の事例などのプレゼンを行い、意見交換などを行った。6 月 26 日から研究会の場を逆川地区公民館に移し、2006 年 11 月 22 日の第 10 回目で研究会は終了した。

この計画は逆川地区に対して、龍河洞活性化研究会で話し合われた内容に自分なりの改善案を含めて景観計画を提案するものである。



2. 対象地区の概要

2-1 逆川地区

逆川地区の人口は 136 名で、高齢者は人口の約 4 割を占める。

2-2 龍河洞

逆川地区には日本三大鍾乳洞の一つで、国指定史蹟天然記念物の龍河洞があるが、近年は観光客の減少や施設の老朽化、空洞化が目立つ。

年に一度、龍河洞祭りを開催しており、メインイベ

ントは龍河洞内の照明を消し、手作り提灯での無料入洞などがある。

2-3 龍河洞公園

龍河洞に併設されている自然公園と銘打っているが、実際には観光商業施設と駐車場しかなく、一面コンクリートで固められている。

龍河洞入り口周辺には飲食店や土産屋が軒を連ねており、同類の店舗同士で競合している。

駐車場は 6 5 0 台収納が可能である。

2-4 清水公園

龍河洞公園の北側の斜面にある公園で、春には桜が満開になる。この桜は昭和 59 年ごろに地区の住民によって植えられたものである。

2-5 龍河洞公園線

龍河洞公園への登り口から南側(龍河洞トンネル側)は既に拡幅工事が終了しており、今後は登り口より北側を拡幅する予定にある。

2-6 河川

逆川地区には逆川川と片地川が流れている。

片地川は河川断面積が小さいため、洪水を繰り返し、現在ではコンクリート 2 面張である

逆川公民館前から逆川橋までの箇所には真っすぐなコンクリート護岸が続くが、一部には瀬や淵があり、水性生物の姿を見る事ができる。

3. 景観計画

3-1 計画対象

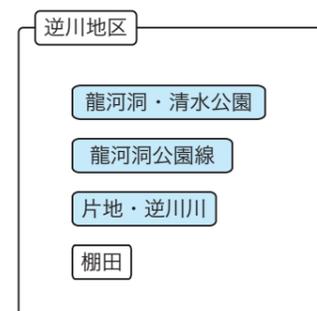


図2 地区を構成する景観要素

逆川地区の景観は、大きく分類すると図2の4つの要素によって構成されている。

この中で、景観整備が必要な3つに対して景観計画を行う。

3-2 逆川地区全体の方針

各整備は最終的に緑の豊かな地区となるような整備を行う。そのために自然環境に十分配慮し、自然材料を使用し、基礎部分以外でコンクリートは使用しない。自然材料も可能な限り逆川地区で調達する。これは整備後に素早く周囲の環境に根付かせるためである。

アスファルトコンクリートを使用する場合は、透水性のある素材を使用し、表面流水を減少させ、洪水を防止する。

3-3 各施設の方針

3-3-1 龍河洞公園線

1) 現況の問題点

- ・道路線形が蛇行しているため、対向車の存在に気づきにくく、運転しづらい。
- ・逆川橋へのカーブが急すぎる。
- ・歩道がなく、歩行者の通行が困難である。

2) 計画条件

- ・龍河洞公園線は道路構造例の第3種、第4級にあたる。
- ・車線数は2とし、車線の幅員は3mとする。
- ・歩道は2m幅のものを設ける。
- ・屈曲半径の計画速度は40km/hとする。

3) 基本方針

- ・道路線形は現道に沿って行う。
- ・橋の付け替えは行わない。
- ・透水性の高い舗装材を使用する。
- ・計画道路沿いにうまれるオープンスペースには、緑地帯を設け、歩道と車道を分離する。
- ・現状の石垣の高さが2m以上のものを1m以下に下げ、ヒューマンスケールにする。

3-3-2 河川

1) 現況の問題点

- ・歩行者が河川へアプローチできる箇所がないため、河川に親しむきっかけがない。
- ・各住宅から出る排水によって河川が汚染されている。
- ・コンクリートと石垣護岸が混在しているので、河川空間に統一感がない。
- ・河積が小さいため、豪雨の時に氾濫しそうになる。
- ・逆川橋周辺は上流側の緑とビオトープの豊かな河川空間とは違い、コンクリート2面張りの殺伐と空間が続いている。

2) 計画条件

- ・河川の付け替えは行わない。
- ・河川の水質は集落排水事業により、改善されるものとする。

3) 基本方針

- ・片地川の upstream 側は石垣積みの護岸や瀬、淵が多く、緑も豊かである。ビオトープも連続して形成されているので寸断しないように自然環境に配慮しなければならない。堰やヤマモモの雑木林を中心に親水空間を計画する場合も同様である。
- ・堰には河川へアプローチ出来るように階段を設置するだけで十分であると考ええる。
- ・下流側では現在のコンクリート2面張りを撤去し、蛇籠を用いて法面を構成する。下流側は自然環境や生物の数が少ないので、整備を行うことで連続的にビオトープが形成される空間を計画する。
- ・集落にふさわしい河川空間を提案する。

3-3-3 龍河洞公園・清水公園

1) 現況の問題点

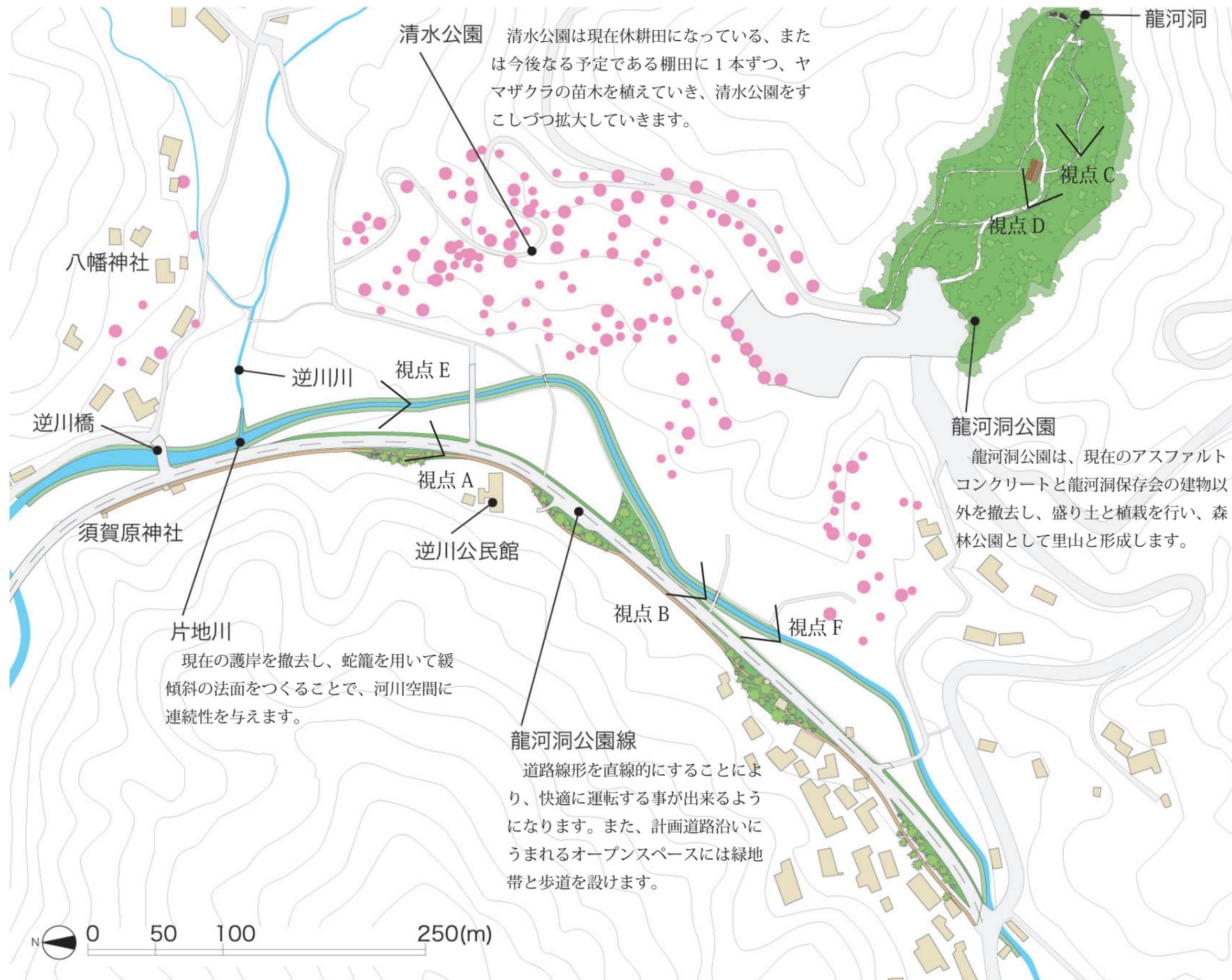
- ・年々、観光客数の低下に悩んでおり現在の入洞者数は絶頂期の3分の1にも満たない。
- ・清水公園は、規模が小さくあまり目立たない。
- ・観光商業施設は同種の店舗が軒を連ねているため、競合し、潰れてしまった店舗もある。また、施設の老朽化や跡継ぎ問題などから経営が困難になる。

2) 計画条件

- ・龍河洞入り口周辺は現況のまま利用する。

3) 基本方針

- ・公園内の施設を継続可能な規模に縮小するなど、早急に方向転換する必要があると考える。
- ・そこで、龍河洞にある保存会の建物以外のRC造をすべて撤去する。現在のアスファルト舗装の駐車場には、盛土と植栽を行い、里山にもどし、龍河洞公園と清水公園を一体的な森林公園として再生する。
- ・龍河洞公園はコナラ・ブナ属や紅葉樹木、果樹で構成する。散策などのレクリエーション行動につながるよう、各樹木は密生しないように一定の間隔でランダムに植える。
- ・現在、山の斜面にある棚田に、一田に一本の割合で桜の苗木を植えることにより、龍河洞公園と清水公園を繋げることができる。



龍河洞・清水公園 整備後イメージパース



視点C
広葉樹と紅葉樹を植栽し、緩傾斜の里山を形成する。公園内では、蝉やカブトムシを捕まえようと子供達が駆け回ったり、散策路を散歩する人で賑わいます。



視点D
美しい紅葉に囲まれた龍河洞森林公園内の保存会前広場では、落ち葉やドングリを拾う子供達や、紅葉を一目見ようと多くの人が訪れます。

片地・逆川川 整備後イメージパース



視点E
護岸を撤去し、緩傾斜の法面を作る事で子供たちが安全に川遊びをすることが出来るようになります。また、遊歩道を設けることで、河川全体を親水空間にすることが出来ます。



視点F
河川だけではなく、地区全体の自然環境にも配慮して整備することで、今では姿を見かけなくなったホタルたちを再び逆川地区で見ることが出来るようになります。

龍河洞公園線 整備後イメージパース



視点A
現道を直線な道路線形変更し、公園線沿いの美しい田園風景を連続的にみることが出来るように整備します。また、歩者分離を行う事で、安全に歩く事が出来ます。



視点B
一体感のない公園線と河川空間を、片地川の緩傾斜の法面にそって歩道を設けることで、公園線と親水空間を一体的に整備します。